

第2回瑞浪市総合計画審議会  
会議録

日時：平成24年8月31日（金） 15:00から17:00

場所：瑞浪市役所 全員協議会室

日 程

1. 会長あいさつ
2. 基礎調査の中間報告…資料1
3. 第5次総合計画進捗状況…資料2
4. 市民ワークショップの中間報告…資料3
5. 市民アンケートについて…資料4
6. その他

出席者

鈴木 (会長)  
勝股 (副会長)  
安藤 委員  
永井 (恒) 委員  
鷺尾 委員  
奥村 委員  
大森 委員  
中山 委員  
小栗 (美) 委員  
伊藤 委員  
近藤 委員  
棚町 委員  
小栗 (智) 委員  
有賀 委員  
大島 委員  
渡邊 委員  
加藤 委員  
山内 委員  
田中 委員  
片桐 委員  
遠藤 委員  
井貝 委員

西尾 委員  
永井（祐）委員

欠席委員

事務局

勝 康弘（副市長）  
水野 正（総務部長）  
高橋 明範（総務部次長兼企画政策課長）  
近藤 正史（企画政策課企画政策係長）  
有賀 大輔（企画政策課企画政策係）  
柿内 博貴（企画政策課企画政策係）

## 資 料

資料①第6次瑞浪市総合計画調査報告書  
資料②瑞浪市第5次総合計画の進捗状況等  
資料③瑞浪市民ワークショップ中間報告書  
資料④第6次瑞浪市総合計画の特定に向けたアンケートの実施概要、瑞浪市民ワークショップ中間発表会およびまちづくり講演会開催のおしらせ)

## 議 事

### 【事務局】

『基礎調査の中間報告』の説明

### 【会長】

皆さんが普段思っていることを数字としてみると、生活感覚と実際のデータがマッチしてくると思います。ご質問・意見はありますか。

### 【委員】

27頁の公共下水道普及率について、63.4%とありますが、ここには合併浄化槽となっているところは入っていない。水洗化率としてみれば、数値はこれ以上になると思います。住みやすさとしては、合併浄化槽も公共下水も変わらないと思います。

### 【事務局】

ご指摘の通り、農業集落排水や合併浄化槽などを合わせると数字は良くなると思います。

**【委員】**

50頁の財政力の説明が分かりにくいので再度説明をお願いします。

**【事務局】**

普通交付税上の基準財政収入額は、市税の75%と各種地方譲与税等の合算額であり、これに対して需要額は人口や面積、道路の長さなどを勘案して瑞浪市ではこれくらいの歳出があると思われる、という数値を出します。その中で、歳入に対する歳出の割合を出すと、財政力の余裕度が導き出されます。1より大きいと歳入の方が大きく余裕があり、1より小さいと赤字という意味になります。

簡単にいうと、市の税金があり、標準の税金規模から見ると、税金でどのくらい歳出が賄えるかを見たもので、それが多ければ市独自でいろいろいできることになります。

**【会長】**

現在0.68となっており、残りは国が地方交付税交付金として出しているの、少なくとも生活はできるようになっています。市の財政が少なくなると生活できなくなるわけではありません。

**【委員】**

2頁の人口、世帯のデータで、一世帯あたり人員が3人程度となっていますが、暮らしを考える場合、年少人口と生産年齢で構成される家族と、老年者と生産年齢者との家族では考え方が違ってきます。その比率とか地域性、経年変化がわかると参考になると思います。

**【事務局】**

ありがとうございます。ご指摘の通りです。

**【委員】**

健康福祉の中で一人暮らし老人数が平成22年度は1,587人とありますが、これは世帯数と考えていいですか。

**【事務局】**

そうなります。

**【委員】**

一人暮らしが1,587世帯あるということですね。同居世帯になっている場合はどうなっているのですか。私の家は98歳の父が世帯主で同居しており、私もまた家族の世帯主となっている。こうした場合父は一つの高齢者世帯として登録されているのですか。

**【事務局】**

住民基本台帳の数字のため、世帯主が違っていれば、同居世帯でも単身高齢者となっています。

**【委員】**

社会福祉協議会で算出しているのと差があるのでお聞きしました。

**【事務局】**

そのあたりはもう少し精査させていただきます。

**【委員】**

9頁の病床数が多くなっている要因はどこにあるのですか。

**【事務局】**

厚生病院は近隣の自治体から来院するため、カバーしているエリアが広いということも要因の1つです。他、最近は病院の数も増えてきました。

**【委員】**

6頁の人口動態についてですが、社会動態が平成22年に470人の減少と多くなっています。なぜ多くなっているのかわかりますか。また平成23年はどうなっていますか。

**【事務局】**

平成22年の件は、調査をしてみました、はっきりとした原因はわかりませんでした。学校(瑞浪麗澤)の寮などへの入居が少ないのでは、と思い調査しましたが、毎年10人づつ位寮に入る方は減っており、22年度は50人位減っている。それでも470人も減少はしておらず、理由はわかりませんでした。平成23年の社会動態は、転入は1,376人、転出は1,594人、差し引き218人の減少となっています。平成22年ほどではありませんが、平成23年も大きな転出超過となっています。

**【会長】**

他に審議事項もあるので、基礎調査の中間報告についての質問は、またあとで受け付けます。また、このようなデータを取った方がよい、というご意見・提案がありましたら、よろしく願います。続きまして、2つ目の第5次総合計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

『瑞浪市第5次総合計画の進捗状況』について説明

**【委員】**

今の説明としては、事業としては概ね実施しているが、基本計画の目標は半分くらいの達成、基本構想の目標は、85%くらい達成できているということですか。

**【事務局】**

そうなります。事業は実施しており、基本計画の目標の達成率としては6割程度となっていますが、基本構想の大きな目標に対しては概ね達成できています。

**【会長】**

目標の達成率については、委員から質問がありましたが、目標を達成した否かだけでなく経緯があるので、数値の読み方に注意が必要です。出てきた数値から何を読み取るのか、評価の方法について、このような考え方もある、など意見があれば出していただけますか。

**【委員】**

4頁の生活環境で、コミュニティバスの利用者が少なくなったのは人口減少等のため、とありますが、資料①の3頁を見ると老年人口は増えているので、人口減少をコミュニティバスの利用者減の理由とするのは無理があると思います。コミュニティバスの使い勝手が悪い、路線の悪さ、と言った理由もあるのではないのでしょうか。ここに人口減少という要因が出てくるのは釈然としません。

**【事務局】**

コミュニティバスの利用状況としては、現在スクールバス的な利用の仕方が多くなっています。ですので、年少人口の減少が大きく影響しています。

**【会長】**

そうならば、それが分かるように書く必要があります。

**【委員】**

近所では(交通機関について)困っている話ばかりを聞きます。周りでは、タクシーを使ってコンビニやスーパーへ行ったりしている人もいます。

**【委員】**

コミュニティバスの利用者が少ないと廃止することもあるのですか。

**【事務局】**

利用者が本当に少なくなれば、廃止を検討することになるかもしれません。具体的な利用者数としては、平成19年11万9,452人、平成22年10万211人(年間のべ)となっています。10万人以上が利用していますが、利用者は減ってきてい

ます。目標としては13万人にしたい。

**【委員】**

バス路線をもっと考えとか、もっと不便なところに走らせるとか、バス停でなくとも乗れるとか、はできないのですか。

**【事務局】**

コミュニティバスがいいのか、デマンド型のものがあるのか、地域によってどのような交通の体制がいいのかを話し合っていく必要があります。今のような市内一律での形態は再考する必要があります。

**【会長】**

このような意見を受けて、これからの瑞浪市の公共交通はどうあるべきかという展望を基本構想として、具体的にどのようにやっていくのか、提案をお願いしたい

**【委員】**

進捗をみるかぎり、基本構想の目標数値があり、達成率は出てくる。基本計画の目標数値があり、事業はやったかやらないか達成率が出る。

しかし、基本構想と基本計画はどう違うのか。

**【会長】**

基本構想は10年の目標。その中に前期と後期5年ごとの計画期間を設ける。10年間の目標を達成するために、まず前期の5年間で、これだけの事業をやりましょうという目標を立てて取り組むのが前期基本計画。それを検証したうえで修正を行い後期でやるのが後期基本計画。今ちょうどその時期。今の達成率の捉え方として、基本構想と基本計画との捉え方のちがいを「どこが同じ、どこがちがう」についてもう少し丁寧に事務局から説明していただきたい。

**【事務局】**

基本構想としては、10年間の大きな目標「こんなまちにしたい」、ここに数値目標を入れることが適切かどうかはまた考えていかなければならない。本当にすべき重要施策の数値目標を出させていただいている。基本計画はもう少し細かい部分での目標・指標を掲げている。

**【委員】**

これは何を評価しているのか。市役所の事業を評価するというよりも、市・市民がどういう体制を取っているのか、どうなっているのか評価するものではないか。評価方法の点数付についても、この数字の結びつき(三角が75%)が本当に実態に合う数字なのかは疑問。概ね、25%くらい割り引いてみないといけない部分もあるかと思

う。一番下の基本計画の評価で一部実施が0.75は実態と違うのではないか。未実施で0.25はおかしくないか。次回、このような評価方法を見直していく必要があるのではないか。

#### 【事務局】

評価方法については、大変難しかったのが感想。いろいろな分野の指標を一つの数値で表そうとすると無理がでてくる。数値の適当性は真摯に受け止める。一つ一つの分野ごとにみていかないと進捗は難しい。その辺についてはこちらの検討課題としたい。

#### 【会長】

第6次総合計画は市民の満足度などを評価の基準としてもいいのではないかという意見もいただきましたので、市民の説明していく時には、新しい評価方法を検討して提案しましょう。

9頁で瑞浪市全地区と皆さんお住まいの地区について、地域まちづくり計画の現状と課題もあるので、それぞれの地域の状況の考え方についても、おかしい点、提案があればぜひ出していただきたい。

#### 【委員】

産業経済分野では、農業関連しかないが、実際の工業製品の推計や商業の動き、工業団地などもっと広い面での評価が出てくるといいと思う。

#### 【事務局】

基本構想のところでは、農業や森林に偏っているが、指標としては商工業・観光もあり、基本構想においては概ね達成している。基本計画では、商業、工業ともに取り組むべき数値が出てくる。そのあたりバランスをとるようにする。

#### 【委員】

3頁の障がい者の自立と社会参加を充実させるべき目標の達成率が30%を下まわるとあるが。地域懇談会で市長に直接話をする機会があったが、特別支援学校にいる子供に卒業したら就労したいが場がない。市長は親が頑張って活動すれば市としても援助するといったが、親だけでやるのは難しい。市の方で受け皿をつくっていただけることをお願いしたい。

#### 【会長】

どのような議論、受け皿が必要なのかをこれからの審議会の議論の中で話し合っていきたいので皆さんご協力をお願いします。質問はまた後で受け付けます。

審議事項の3点目に移ります。市民ワークショップの中間報告について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

『瑞浪市民ワークショップ中間報告書』について説明

**【会長】**

第1回・第2回のワークショップの中間報告ですが、参加された方も中にはいらっ  
しゃいますが、参加されていない方も、それぞれの地域、また地域全体での提案や今  
後の展望や市民の現状の捉え方、将来展望の出し方についての意見、またワークショ  
ップのやり方の評価についてのご意見がありましたら遠慮なくお願いします。

**【委員】**

P28の災害に対応したまちづくりで、家庭への太陽光発電とありますが、再生エ  
ネルギーについて触れられているのはここだけだった。先々週白鳥の石徹白で小水力  
発電の視察をしてきた。瑞浪よりもっと自然が豊かな石徹白で小水力発電をやってい  
る。視察したら、どこでも瑞浪でもできると思った。一級河川は難しいが、田んぼの  
水があれば簡単にできるとのことで、将来的には石徹白は全部地産地消で電力を賄う  
ことを目標にしている。まちおこしで人を集めているので、人もどんどんふえてトウ  
モロコシだけが収穫できる土地がどんどん活性化している。この小水力発電を瑞浪で  
もぜひやってほしい。

**【委員】**

若者・学生の参加率はどうなっているのか。

**【事務局】**

残念ながら学生の参加者はいない。比較的、年齢も高いのが現状。若い人に参加い  
ただけたらと思う。10年後の将来像を話し合っているのも、若い人の意見も欲しか  
ったが、高齢者の方が多いのが状況。若者の意見となると、10月に市内の3つの高  
校、大学で市長と語る会を設ける予定であり、反映していきたい。

**【会長】**

ワークショップに参加する方が適正な人員が反映されているかどうか、また瑞浪市  
に住みながら市外に通学・通勤している若者たちと市長との懇談会あっていいのでは  
ないか。そのような提案を受け入れる余裕はあるか。

**【事務局】**

市長と語る会は随時行います。「手をつなぐ育成会」とも行う予定ですのでよろし  
くお願いします。

**【委員】**



学生さんでも瑞浪でこうした活動があることを知らない人が多い。学生にも参加してほしいと広く知れ渡れば、興味のある学生は参加すると思う。

#### 【委員】

地域懇談会の発言では地域性が大変出ているので、瑞浪市の総合計画は地域性を外した全体の目標・夢のようなものがあったってもいい。今回の東日本大震災、東南海地震などで海岸から高台に上がりたい企業がふえている。この地域は中津川はリニアの話があり、瑞浪市も海から遠く離れている。この地域を活かした、海から遠い安全性をもっとPRして企業なり学校なり、国会なりに、計画をもう一度上げてほしいと思う。工業団地をたくさん造るのではなく、ある程度の企業を決めて、その企業に来ていただく、そこに合わせた造成をするといった企業誘致も本格的に考えてほしい。検討の材料の一つにしてほしい。

#### 【会長】

地域特性も踏まえながらの全市の目標は基本構想になりますが、構想としてはどこかの土地を使わないといけないわけです。その点は市としてはいかがでしょう。

#### 【事務局】

今回のワークショップでは自分たちの町のことについて考えましょうという前提なので、地域の意見となっている。瑞浪市全体のことについては、今後10年を考えた場合、切り離せない問題であり、市としてどうかかわっていくか難しい問題です。しかし土地の問題になると、個別具体的な話になり、今すぐ具体的な土地がない。むずかしい問題ですが今後検討していきたい。

#### 【会長】

震災の問題も含めて、新しい状況を踏まえて基本構想を作る必要があり意見を活かしてもらいたい。

#### 【委員】

3頁にあるワークショップの結果で、各地の良い点、悪い点がでていますが、それぞれの共通項もあるので、これをある程度グループ化すれば今後の市のテーマが絞れてくると思う。

#### 【会長】

これからワークショップがまだあるので、これからもお力を貸してください。では、協議事項4の市民アンケートについて事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

『第6次瑞浪市総合計画の特定に向けたアンケートの実施概要』について説明

**【会長】**

ありがとうございます。これは確定ですか、まだ審議して調整できるのですか。

**【事務局】**

まだ調整できます。

**【会長】**

たたき台ということで、意見を踏まえて修正することはできるので、意見をお願いします。

**【委員】**

5次総合計画の時にアンケートは実施してないのですか。

**【事務局】**

市民意識調査ということで行っています。

**【委員】**

2,000名位を無作為とあるが、地域によって格差がある。例えば施設が足りないなど。陶なら陶からどのくらい抽出されるのか、住みやすい地域との地域バランスは考えているのか。

**【事務局】**

無作為抽出なので、先に地域を限定せず全市からとなっている。結果として、陶地区が多いとかはわかるが、それ毎に分析するかどうかはわからない。

**【委員】**

ワークショップとも関連して、全世帯とかで割り振ればいいのかと思った。2,000名にこだわったのはなぜか。

**【事務局】**

まったく無作為の2,000名が適当だという判断です。

**【会長】**

委員からはワークショップとアンケートの関係についての質問です。これからワークショップは開催していくので、項目との関係を意識したワークショップを検討していただき、アンケートを地域的な観点で俯瞰するというご提案ですね。それを是非考えてください。

**【委員】**

設問13、14、15について、設問13は(マルは3つだけではなく)全部にふりたい。設問13までで全て聞いていると思うので、設問14、15の必要性がわからない。キャッチフレーズはちょっと軽い気がする。

**【事務局】**

設問13までで具体的な要望や希望を聞くことで方向性は見えてきますが、設問14、15ではもう少しストレートにどういったまちがいいのか聞いている。非常にわかりやすい形で結果が出てくると期待している。キャッチフレーズについては、ある程度の傾向が読めたり、思いがけない言葉が出てくることを期待している。

**【会長】**

第5次の基本構想のキャッチフレーズはあるのか。

**【事務局】**

全体のキャッチフレーズはあります。

**【会長】**

一言で何を指すのかということがわかるのも大切。従来は内部で検討していたものを、今回は市民の意見を踏まえてキャッチフレーズにするという主旨ですから、そのあたり主旨を理解しやすいよう検討してください。

**【委員】**

漠然とした印象ですが、3頁で、暮らしやすいまちがいい、足りない部分を補うと言う前提でのアンケートとなっているが、果たして暮らしやすい街を計画することがいいのか。多少暮らしにくくても、暮らしたい街といったのもあるかもしれない。景色がいいとか、環境がいいとかありますが、多少自分たちの生活を犠牲にしてでも暮らしたい街はある。そうした新しい魅力を追求することも大切ではないか。

**【事務局】**

生活を重視すると、暮らしやすさだけではないということですね。

**【会長】**

具体的な項目があれば委員さんから提案をしていただき、検討すればいいですね。その他、事務局から説明をもらい、まだご発言のない方もおられますので、全体の質問を受け付けます。

その他

**【事務局】**

次回総合計画審議会は11月26日(月)、午後1時半から当会場で開催します。開催案内は別途郵送で案内します。

**【会長】**

協議事項1から4まで全てについて何か質問があればお願いします。

**【委員】**

会長に伺いたい。瑞浪市という字を読める人は全国的にみて何%くらいいるか。出身地を書いたらどう読むかを聞かれたことがある。どこにあるのかといたらほとんどわからない。

**【会長】**

%はわからない。発言の意図としては、瑞浪という漢字が悪いと思われませんか。

**【委員】**

悪いと思っているわけではない。何かをやろうとしたときに、このままでいいのかと感じた。以前から思っていた。

**【会長】**

瑞浪と瑞穂を間違えたり、書けない人もいるかもしれない。

**【委員】**

今の意見には賛成ですが、前回の総合計画基本構想が安全快適な瑞浪をつくるという主旨あり、それが暮らしやすさの評価につながっている。根本から見直すのであれば、政策評価として「暮らしやすいというのはどうなっていますか」と言うアンケートでもいいと思うが、新しい計画の指標については、別の視点、新しいアンケート項目がいいと思う。

問題意識としてある部分が最初の基礎調査のまとめ、これは事務局が問題意識として持っている。これに対する回答をだしてくるのが皆さんのお仕事だと思う。問題意識があり、これを解決するために昼間人口指数が90.5となっているが、これを100にするのか、このままでいいので、より暮らしやすい町にするのかは判断がわかるが、それを確認するのが今度のアンケートであり、このような流れになっていくのでしょうか、という確認をしたい。まとめとして、基礎調査として書いた部分は問題意識として持っていると思うが、基本構想の中で解決策や方向性については、アンケートやWSの結果として事務局から出されているということでしょうか。

**【事務局】**

アンケート自体は、要望希望を聞くようなものではない。まとめは問題意識と言われればその通りですが、まとめとはデータを客観的にあらわしたものであるというのが今の

状況です。これを解決するために次の方策を出すということも、事務局として今は考えていない。ワークショップやアンケート調査の結果を踏まえて事務局が解決策を出すのか、というご質問には、当然市役所全体として提案させていただくこととなります。市役所だけで作るということではなく、まずはWSの中でいっしょに考えさせていただきます。

**【委員】**

最後のまとめで高齢化社会に突入しているから等のくだりで、既存ストックを重視したとの方向性もあるが、それはもう決まっているのですか。それ以外の方向性もある。

**【事務局】**

まとめすぎたと思います。

**【委員】**

最後のまとめのところ、基本的にストック云々はわかりにくい。わかりやすく説明してほしい。第5次総合計画の進捗状況の評価、これも計画の実施は90%以上、基本計画の進捗状況は50から60%。基本構想は80%以上。これでは進捗状況について正確に把握しにくい。事務局には次回でいいので総括をしてもらいたい。

**【委員】**

資料②は文章として公表されるのか。

**【事務局】**

本日の資料はすべて公表される。審議会の資料として公開されるが、修正・変更はあるので確定されたものではない。

**【委員】**

これ見てすぐわかる人はいない。基本構想と基本計画はもうちょっと簡単にして実施としてやったことを細かく書いた方が市のPRになると思う。基本構想、基本計画のところの方が分かりにくい。

**【会長】**

この扱いについては、意見を踏まえて、検討しなおして、次回どのように公表するか考えるということでもいいでしょうか。それでは、時間を超えましたが、意見を出されてない方もいるので、1から4までについて、ご意見を1週間くらいを目処に届けていただくということも可能ですか。

**【事務局】**

よろしく申し上げます。

**【委員】**

これを読んでも何が書いてあるかわかりづらかった。自分の専門教育分野で、アンケートの実施要綱4頁の項目として、児童館がない地区にこの項目を入れていいのか。児童館がない地区の方はどう評価するのか。放課後児童クラブとはどこで何をやっているのか。これは学童保育のことか。教育分野で引っかかるところが結構ある。

もうひとつは、一番の問題は、中学校の統合問題。第6次の総合計画で中学校の合併に関わる方向性については書かれているのか。計画にはいつてくるのか。

**【事務局】**

中学校の統合については、計画の中に織り込んでいくこととなります。

**【会長】**

こうしたご意見を9月7日(金)までにアンケートの修正、評価についてのご提案をよせてください。

本日の審議事項は以上です。ありがとうございました。

以上